



# 伊那市【長野県】 歴史文化基本構想

■策定年度：令和2年3月 ■人口：67,593人 ■市域面積：668km<sup>2</sup>  
■担当課：伊那市教育委員会生涯学習課（令和2年3月現在）



南アルプスと中央アルプスの2つのアルプスに抱かれ、天竜川や三峰川など幾筋もの河川が流れる伊那市には、多くの歴史文化資源があり、長い間地域で受け継がれてきた。社会環境の変化等により、その存続や継承が危惧される中、市民一人ひとりが歴史文化資源を「私たちの財産」として認識した上で、それを活かしながら将来にわたって守り伝えていくため、本構想を策定した。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

2つのアルプス、中心と境界を示す遺跡と遺物、  
街道の交差点、高遠城、天竜川・三峰川と河岸段丘

### 課題

- ・地域に潜在している歴史文化資源の明確化
- ・歴史文化資源の将来にわたる保存
- ・歴史文化資源を活用した地域活性化

### 保存活用方針

- ・歴史文化資源を知る
- ・歴史文化資源を広め活用する
- ・歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり

## 保存活用のための取り組み

### 継続的な調査研究の実施や市民の手による資源の掘り起こし

指定・未指定に関わらず、歴史文化資源を新たに把握し、既知の資源についても、その価値をより明確化するため、継続的な調査・研究を実施する。市民グループが中心に行った「古い地名調査」の経験を活かし、市民目線に立ち、新たな歴史文化資源を発掘する。



### 博物館等の充実と学校教育との連携

博物館施設の情報発信の強化、展示等の充実を図り、市内小中学校、高等学校と連携しながら、子供たちが「ふるさと伊那」を知り、歴史文化資源にふれる機会を提供する。



### 各種イベントの実施

高遠城址公園さくら祭りや進徳館の日、伊澤修二記念音楽祭など歴史文化資源をとりあげた各種イベントを実施するほか、様々な世代に伊那市の魅力を感じてもらえるような、市民が参加しやすい講座や講演会等を実施する。



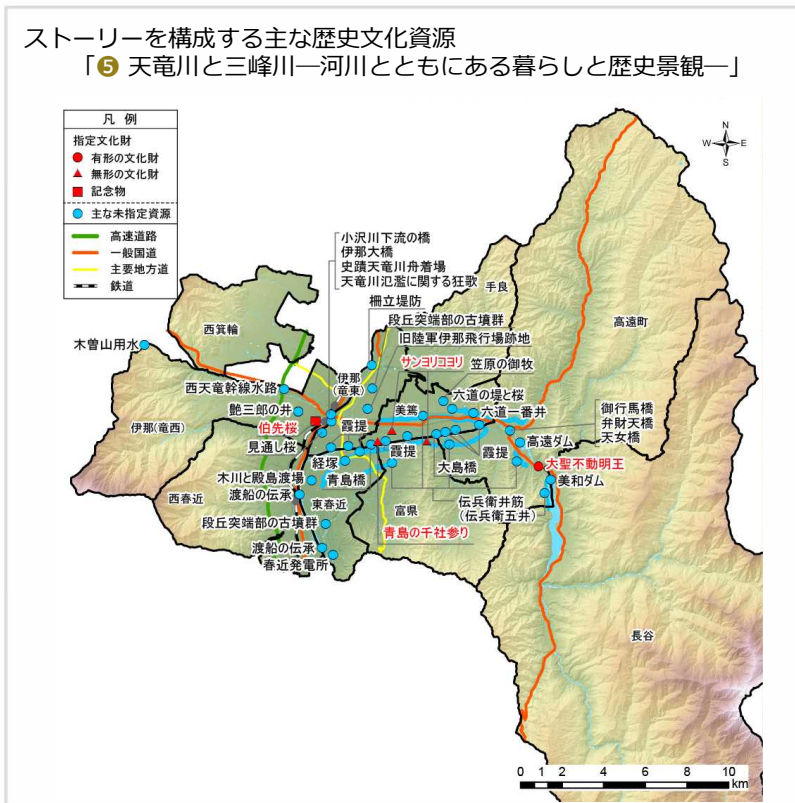
### 文化財指定の推進、所有者支援、関係団体等との連携体制づくり

指定等文化財の類例調査や悉皆調査等を行いながら、必要に応じて文化財指定を進める。また、地域全体で歴史文化資源を保存・活用していくため、所有者や保存団体、観光関係者等のネットワークをつくり、現状や課題、解決策を共有できるような体制づくりを行う。



## 関連文化財群

ストーリーを構成する主な歴史文化資源  
 「5 天竜川と三峰川—河川とともにある暮らしと歴史景観—」



伊那市の歴史文化の特徴を捉えた「山」、「川」、「みち」のキーワードを元に、伊那市を語る上で欠かせない特徴的な自然環境と、その環境下で育まれた歴史文化資源を指定・未指定、類型にとらわれず取り上げ、伊那市らしさを表す5つのストーリーとした。市の花「さくら」に関する資源を各群に盛り込み、日本一の桜の里づくりを掲げる「伊那市」を感じることができるようにした。

### ストーリー

- 1 山とともに  
—2つのアルプスに抱かれた伊那市—
- 2 旧石器時代から古墳時代まで  
—地域文化の中心、  
境界となった伊那市—
- 3 街道  
—人・もの・文化が行き交う伊那市—
- 4 高遠城  
—700年の歴史が作り上げた  
街並みと文化—
- 5 天竜川と三峰川  
—河川とともにある  
暮らしと歴史景観—

中部地方

## 策定後の成果（見込まれる効果）

① 市民と協働で調査研究を行ったり、積極的な情報発信や様々な世代に対応した講座・イベント等の実施により、市民が歴史文化資源に触れる機会を増やす。  
 「守る」「活かす」につながる第一歩ともいえる「知る」機会を増やすことは、円滑な保存・活用につながる。



② 地域のつながりと歴史文化の関連性に基づき、市域を「伊那地域」「高遠町地域」「長谷地域」の3地域に分けて保存活用区域を設定した。地域特性に応じた保存活用施策を展開することで、「地域の良さ」、「地域らしさ」を磨くことができ、地域への愛着や誇りが生まれ、地域コミュニティの活性化につながる。



③ 行政内部が密接な連携を行うことはもちろん、所有者や保存団体のほか、多くの主体が連携を図りながらそれぞれの立場で保存・活用に関わることができるような体制づくりを進めていく。複数の主体が連携しながら、歴史文化資源を地域ぐるみで確実に将来へ受け継いでいく。



歴史文化資源に触れる機会の増加

地域ぐるみでの保存・継承